

《ジェネラリスト BOOKS》
糖尿病・内分泌疾患の常識&非常識
岩岡 秀明, 中山 久仁子(著)

大阪医科薬科大病院総合診療科

三澤 美和

初心者には最良の基礎学習となり、
上級者には最高の復習の時間となる本

前半の糖尿病の食事療法を読み始めると、岩岡秀明先生が普段患者さんと笑顔で話している診察室の会話が見えてくるような気分になる。「果物は1日に握りこぶし1個分」「(コーヒーは)無糖にしないとだめだよ」「時々は記念日を作ろう」。患者さんの気持ちをおもひやりながら、丁寧にアドバイスする様子が目に浮かぶ。そこに中山久仁子先生が誰でも抱くような素朴な疑問を投げかけ、また丁寧な解説が続く。対話形式の内容を読み進めると、いつしか自分の診療を一番底のほうからいったんすくいあげて見直しているような気持ちになった。

「あ～そうそう、そうだった」と思わせられる重要なエビデンスしかり、「最近はそうなったんだ」という新しい発見しかり。糖尿病の薬物療法には多くのページが割かれ、丁寧に疑問に答えてくれる。意外とあいまいにしていまいがちな高尿酸血症についても言及されている。しかもこの本は糖尿病だけにとどまらず、日常でよく出会う内分泌疾患の素朴な疑問にも答えてくれている。甲状腺や副腎、日常に出会う頻度が非常に高い骨粗鬆症。内分泌だけを特集した分厚い教科書と格闘するよりずっと、知識としてすんなり入ってくる。また会話から中山先生が普段どのような診療をされているかも垣間見え、プライマリ・ケア医としてどこまでが必要とされているのかを確認できる。プライマリ・ケアの良き理解者である岩岡先生と、現場の家庭医である中山先生が繰り広げる言葉のキャッチボールは、まるで自分が小さなカンファレンスにお邪魔したような気持ちにさせられた。

ページのところどころに指差しサインで「非常識」と書かれている。自分の診療に知らないうちに非常識が紛れ込んでないか、ドキッとする。私たちはいつも自分の診療を振り返り、updateし続けたいといけな。かといって、自分一人で全てのエビデンスやガイドラインの進歩を根こそぎ見つけにいくのは難しい。この本をすらすらと読み通すと、糖尿病や内分泌疾患の「今の常識」がしっかり確認できる。そして今日からさっそく自分の診療に生かせるような内容ばかりだ。初心者には最良の基礎知識が得られ、上級者には診療の質を振り返る最高の機会をくれる。

個人的には、数多ある糖尿病治療薬の一般名と製品名、さらには先発品と後発品に分けての3割負担の場合の薬価負担額が一覧となっているところに心を打たれた。エビデンスは大事だが、糖尿病薬は高価なものも多い。この表を見ると目の前の患者さんが本当に無理をしない最適な治療を選ぶことができていいのか、と自分に問いたくなる。診察室でこの表を見ながら患者さんと治療法を一緒に決めていくのもいいだろう。読み終えたあとも、まだ二度も三度もおいしい本である。表紙には、公園で笑顔で話すお二人のイラストがある。私もその会話に入り込んで糖尿病や内分泌の話題をもっと話してみたいくなった。



●A5/頁 260/2024 年
定価：4,180 円
(本体 3,800 円 + 税 10%)
[ISBN978-4-260-05479-9]
医学書院 刊